TITAN Talent Info.（順不同）

写真に上記のアイコンが表示されているタレントはブログやっております。コメントの場合はそれぞれの写真上に表示されています。名前で検索してご覧ください。

Twitter　Instagram

爆笑問題（太田光・田中裕二）

テレビ朝日「太田山」「爆笑問題のニッポンの芸能」、TBS「ナックルズ」「爆笑！THE ラスト一レー」、ETV「いけるスタジオ ブラボー!」(都中)、日本テレビ「秘密のケンミンSHOW極」(都中)、中京テレビ「太田上田」(太田)、TBSラジオ「爆笑問題のカーキーレ」「日曜ナンデ…」、AbemaTV・テレビ朝日「熱闘！Myー〜ブ」(都中)、FOD「爆ポテ！一問題」配信 ▶ TVCM P&G「ジョ＆ド」(都中)、U-NEXT」(太田) 出演中。「2020年度賞 浸ポ 爆笑問題のクリーンシャッル」U-NEXTにて独占配信中！

日本エレキテル連合

貴女のトラウマに立ち向かえ

見るものにトラウマを与える狂気のキャコラボ。2020年9月にラストアワーマーケットを迎える日本独立演「Neo DokiDoki」を開催。YouTubeのコントチャンネル「感電パラ」（登録者15万人）にて、初の有観客「感電パラ 信州がポピ！19年開催の本独立演「西暦大演」DVDを発売中。14年「流行語大賞」大賞受賞。

ウエストランド

加速する、拡る、嫉る、傑る、爆る漫才！

岡山身の回総さ漫才コンビ

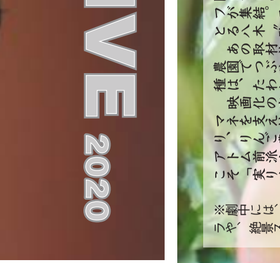
ごつでyouTube/podcast「ウエストランドのちちっとし」、個人でyoutube「ウエストランドチャンネル」「ウエストランド総本山」、ラジオ「ラジオ総本山ウエストランド」配信。M-1グランプリ2018準決勝、R-1グランプリ2020準決勝ゲム。ラバー・SLOTH「なんにもない」OMVA主演作品。「第1回ウッ温泉演舞場 日本大会」にて優勝、ハイシンドーの世界大会に出場。（羽衣）

山口 達也（ヒャダイン）

ヒット曲を作れ！

ヒットメーカーの作曲テクニックを、ヒット曲を例に、ヒットの理由を解説。ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

中村 ゆうじ



ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

中村 ゆうじ

ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

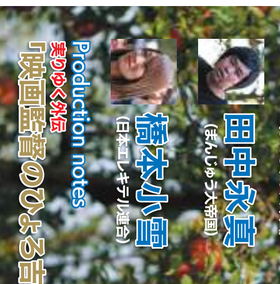
ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

中村 ゆうじ

ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

ヒットの法則を見つけ、ヒット曲を作ってみる。

脳みそ夫



「日経エンタテインメント!」姉さま芸人ランキング17位にランクイン!

ポッ!プ!ッキ!ッ!でお馴染!!ニ大人気、自作曲「脳みそ体操」は、TIKTOKで動画投稿総数30万件を超える。千葉県日井市のローカル(金曜コーナーレギュラー)「ウチのガッケみまセん!」なお出演中。

あもしゃ帝国（竹内一希・田中永真）

ツイッターで「ENGEIグランプリ2020 LIVE」「ネバイル」などで活躍中!

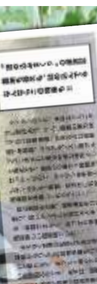
ツイッターで「ENGEIグランプリ2020 LIVE」「ネバイル」などで活躍中。「ENGAGEツイッタラ」などお出演。DVD「第一回単独公演「鬼の番でゲ。たしかに ね。」販売中！

長井 秀和

ギリギリ芸をする芸

間違いないい！ 気をつけろ！

ゆうちゃん



ゆうちゃん

ゴンエルフ（ぼるゴ・望月隆寛）

TBS「有田ジェーンーシャン」

ハ ネ ュ ー 出 演 中 !

数あるコントの中でも、おでのお好きチャ!ネ!ル!一度見たら病ひになること間違いなし。日本テレビ「おもひろ!!」、ニルナンテスリ」、ツイッター「ネタ!!」、CBCテレビ「西新宮さん」なお出演。YouTube「ゲニエルズ公式ハ広場」「ゲニエルズ競馬」要新中！

相星ブトム劇団（八木マネ・編集(仮)）

橋下徹

弁護士法人 橋下徹総合法律事務所代表

Abemaトゥデイ「ゴゴ!ニュース」「Newsバー」「ゴゴ!ニュース」「Newsバー」「ゴゴ!ニュース」「Newsバー」

実りゆく

10.9 公開

©「実りゆく」製作委員会

監督・脚本／八木順一朗　出演／竹内一希（まんじゅう大帝国）　田中要次　田中永真（まんじゅう大帝国）　橋本小雪（日本エレキテル連合）　鉢嶺杏奈　島田秀平　小野真弓　三浦貴大　爆笑問題（特別出演）　山本學　◆主題歌「By Myself Again」GLIM SPANKY　●配給／彩プロ　●10/9より新宿武蔵野館ほか全国公開　https://minoriyuku-movie.jp/

概要

堤幸彦、大根仁らトップクリエーターを擁するオフィスクレッシェンド主催の「未完成映画予告編大賞」で堤幸彦賞とMI-CAN男優賞を受賞した『実りゆく長野』を劇場公開用に映像化。タイトルを「実りゆく」に変え、長野県下伊那郡のりんご農家を舞台に、芸人志望の息子とそれに反対する父親が衝突し、成長していく姿を下伊那郡の美しい風景とともに描く。監督は予告編作品に続き、タイタンマネジャーの八木順一朗が務め、主演もまんじゅう大帝国・竹内が続投する。主題歌は下伊那郡出身の男女ロックユニットGLIM SPANKY。

Story

東京から車で約4時間かかる長野県下伊那郡松川町。りんご農家の跡取り息子として生まれた実（竹内）は、母・慶子（小野真弓）の死後、父・等（田中要次）とともに農園を切り盛りしているが、週末になると長距離バスで上京し、お笑いライブに出演している。生まれつき吃音をもつ実だが、舞台に立つときだけは、流暢に話すことができ、自分の話芸で人を笑わせる瞬間だけは何よりも幸せだった。さらに実には、どうしても“笑ってほしい。存在が。それは、慶子の亡きあと、笑わなくなってしまった等だった。実の思いを知らない等。そんな折り、りんご農家の跡取りにとって大切な儀「奉納祭」が迫る。だが、奉納祭当日は、お笑い芸人全員が目指す賞レースの開催日でもあった。町をあげての奉納祭の準備が進む中、実はこのままりんご農家を継ぐのか、お笑い芸人の道に突き進むのか、その狭間で思い悩む。そして運命の日。果たして、実の“思い。と“夢。の行方はいかに？

監督・脚本 八木順一朗

（タイタンマネジャー）

Profile

1988年生まれ。岐阜県出身。日本大学藝術学部映画科を卒業後、タイタンに入社。マネジャー業と並行して映像制作も行っている。

映画を陰日向で支えてくれた松尾に感謝

――まずは、このたびの作品公開にあたり、感慨深く思います。マネジャーとして働きながら、映画監督の夢を抱き続けてきたことを存じておりましたゆえに、そうですね、ありがとうございます。幼少期から監督になりたい夢は持っていたものの、タイタンに入ってから、マネジャーとして5、6年働いていたので、もう助監督から監督へと段階を踏んでいく道はムリだと思っていましたから。あとは貧しいスペックでの結果を残すしかないと、そんな中で、未公開映画予告編大賞（通称『ミカン』）の存在を知り、これが本当にラストチャンスかもしれないと思って応募しました。

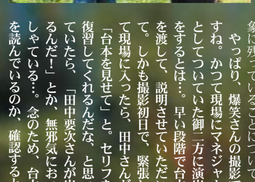
――グランプリは逃しましたが、八木監督は堤幸彦賞を、出演された竹内さんは主演男優賞を獲得。この結果をどう受け止めていたのでしょうか。

本当にラストチャンスだと思っていたので、めちゃくちゃ悔しかったし、もう監督にはなれないと思っていました笑。

――その後、急転直下で映像化のお話に。

本格的な打ち合わせから撮影に入るまで4カ月ないぐらいでしたの、どんな役者さんよりもんごのスケジュールが大事だったので（19年10月末に撮影。撮影日数も予算との関係で9日間。もうバタバタでしたね。

――それまで小まめに告知情報など、ご連絡くださっていたのに急に音信普通に笑？。あ、激務中と想像していました。



すみません笑。まったく気が回らず…。

――（稀読みで）あ、全然いいんです笑。さて、主演に指名した竹内さんについて。本編を撮影して、改めてとんでもない表情や話し方、言葉のテンポなど、人が応援したくなったりする天性の魅力を持っているのはマネジャーとしてわかっていたので、そこを膨らませるようなキャラクター像を作る感じでした。現場でも言ったことをすぐにできるようになるんですよね。とても上手いと感じました。

――相方の田中さんについて。本編では、主人公・実の幼なじみ役大仲間を演じています。

嫌われ役でしたし、感情を爆発させる芝居が多かったんですが、普段怒ったりしない彼なのでね。苦労している感じがありましたね。僕がマネジャーという関係性もあると思いますが、彼からたくさん質問をくれて一緒に役を作っていったんです。

――どこまでが影のある役を演じられた橋本さんについて。

普段、コントでふわっ壊れた役ばかりやっている橋本さんの芝居がとても好きなんです。そんな側面の魅力をマネジャーとして出したかったので、本編では、橋本さんが人の話を聞いているカットが多いんですよ。

――妖艶な表情が印象的でした。その一方で、原チャリで走るシーンだけ、ただならぬ緊張感が見て取れて笑。

橋本さんは撮影の2週間前に免許を取ったばかりだったので、そのシーンはわが者のガチガチの姿勢なんですよ笑。しかも、雨上がりのマンホールの上も走らなければいけない、運転素人には悪条件ばかりで走ってもらっていたので…。

――その姿はひと、本編で、また、橋本さんの相方・中野さんも出演されています。

彼女たちの役作りの過程を垣間見ることができたことが新鮮でした。2人は普段コントですが、今回の現場では、こちらが説明したキャラクター像をそれぞれ裏側を考え、肉付けして演じていた。こういう風にエレキのコントは作られているのかと知り、そんなコント師の一面に感動しました。マネジャーは、ネタを作っているところはなかなか見ないので。

――ほかに、演出された中で印象に残っていることについて。

やっぱり、爆笑さんの撮影ですね。かつて現場でご一緒にしていた御一方に演出をするとは…。早い段階で台本を渡して、しかも撮影初日で、緊張して現場に入ったら、田中さんが「台本を見せて」と。セリフを復習してくれるんだな、と思っていたら、一日中要次さんが出ずっぱり！とか、無茶ぶっておっしゃっている…。念のため、台本を読んでいるのか、確認すると、

「読んでいない」と笑。太田さんにも確認したら、「いや、失くした」と笑。ちょっと！待ってくれよ！と、思いまして、状況だけ説明して、あとはアドリブでお願いします、と。

――本当は御一方にセリフが用意されていたのでしょうか。

ありましたよ！笑。

――台本を読んでいないことは想定内ではなかった？。

想定外でしたよ笑。きっちり読んでくれて、ちゃんと芝居をしてくれると思っていましたよ。だって、僕がマネジャーとしてドラマの現場で付いているときは、ちゃんと台本を読んでいる姿を見ていたので。きっと今回も読んでくださっているだろう！…でも、急遽、アドリブで撮影しましたが、逆にリアルな感じになって、良かったと思います。

――作品が完成し、コロナ禍でも劇場公開も決まり、映画監督という夢も実現しました。一実りゆく。今の率直なお気持ちを。

主人公のモデルとなった松尾（アーム前派出所）さんが一番頑張ってくれました。現地・松川町での撮影の交渉をはじめ、自宅、農園もお貸しいただいた。松尾家さん面協力です。準備期間から撮影中、完成後の現地キャンペーン中も松尾さんはりんご農家をやりながら、芸人をやりながら、地域の業務もやりながら、映画作りも手伝ってくれました。すべて全力で取り組む松尾さんはスゴイ人でした。本当にニューズが続く中、本作を見られたことは、作品になっていればいいなと思っています。

撮影中の八木監督はヘラヘラ顔ではなかった

――長尺の「演技」をされて、率直な感想をお聞かせください。めちゃくちゃ大変でした。終わんないのかと思いました。

――エーマ役でご苦労された点について。

全然違う性格のキャラクターだったので、心情を理解するのに苦労しました。役名をエーマにします、と監督に言われた時に抗議したのですが叶いませんでした。

――長野での撮影中は、相方・竹内さんが基本的に人間の心情がわからないので演技プランを立てるとき、コントやセリフが好きで、さらに心の機微をよくわかっている田中さんに相談していたんですよ。田中さんご自身は、どなたかに相談されていたのでしょうか？

竹内さんが「基本的に人間の心情がわからない」と思っていること、が怖くて仕方がないです。僕は割と極端な感情が多い役だったので、気持ちを作ることよりも表情に出すことのほうが難しかったです。シーンを撮影しながら木監督と相談する感じでした。

――八木さんから、どのような注文がありましたか？

基本的に「もっと、もっと感情を出してください。」って感じでした。「エーマってそういう感じじゃないんですよ」って言われた時は自我がぶっ壊れるかと思いました。

――普段はマネジャーの八木さんですが、撮影現場での八木監督の姿は、田中さんにはどのように映っていましたか？

いつものヘラヘラ顔が無くなって真剣な顔つきになっていて、何かイヤでした。マネジャーさんの時にはなったことの無い顔でした。

――劇中で印象に残るシーンについて。

主人公の実とケンカになるシーンです。初めてお互いに胸ぐらを掴みました。今後に生きると思います。

――撮影中の印象に残るエピソードをお聞かせください。

松尾さんのお母さんが撮影で使う予定だった軽トラで買い物に出ちゃって「帰宅待ち」が発生したときのことが印象に残っています。ピリピリした現場が和やでなんか温かい気持ちになりました。

――完成した作品をご覧になった率直な感想は？

ホントに映画になったんだって思いました。めちゃくちゃ良い映画でした。

――本作を経て、竹内さんへの印象で変わった点について。

特にありません。良くも悪くも。

――八木さんは、本作で、映画監督という夢を実らせました。田中さんが今後、“実らせたい。ものは？

1日でも早くコロナが終息して満員の劇場でライブをやりたいです。めっちゃやってないから何の不安もなくお笑いをやりたい。

エーマ役

田中永真

（まんじゅう大帝国）

Profile

1993年生まれ、北海道出身。東京理科大学在学中に学生落語で活躍。国立演芸場今年の元年度「花形演芸大賞」銀賞をコンビで受賞した。

期待してくれる方に全力で応えたい

――八木マネジャーからの映画化の報告は、どのような形だったのでしょうか。

ちゃんとは言われてはいないです笑。八木さんは忙しくて、我々に手が回っていない感じなので、「まんじゅうの2人はこの期間のスケジュールを押さえてあるのでよろしくお願いします」という連絡が来て、「何の話ですか？」と確認したら、「あ、『実りゆく』を撮るんですよ～」と、そんな軽い感じで笑。映画を作るとなったら、ご飯でもどうよ、お酒なんかもちょっとスペシャルな感じで、竹内クン、ここで一緒に僕と頑張ろう！と、固い握手でもしたかったですけど、現場は普通の業務連絡でした。寂しいもんです笑。で、その後も、共演者の方や撮影の現模感など、詳細は徐々に決まっていったと思うんですけど、それに関するお話は一切ないまま来ましたでした。「えー！田中要次さんがお父さん役なんですか！」「え！　爆笑さんも出演されるんですか！」「え！　全国で公開されるんですか！」など、噂レベルで僕の耳に入ってくる情報を八木さんにいちいち問い合わせる感じでした笑。

して撮りたいものがあるので、的確にそのことを伝えてくれました。そこが普段の八木マネジャーの顔とは違うものでした。

――実役で苦労された点は？。

芸人のシーンは、自分も芸人なのでその気持ちはわかるんですが、実のパワフルパワーが…。

東京出身の僕は上京の経験がないので、その気持ちがわからないし、さらに、親が芸人になることを反対しながらし、また実家で暮らしている。実とは真逆の境遇なので、実の気持ちに寄り添えるかが不安でした。

――ルハウスでスケッチと育ってきた印象があります。

実が父親と口論するシーンは、実生活では未経験なので本当に「怖ッ！」って思いながらケンカをしていました。長距離バスにも慣れていないし、車内で緊張している姿も、マジの緊張感が出ていると思います。今となってなるとやってみると、へたに経験していたら、それを再現しようとして、より下手になっていたと思いますね笑。

――緊張といえば、爆笑問題さんとの共演場面は、まさに緊張感満載のシーンでした。

爆笑さんがほとんどアドリブだったので、これは参ったぞ、と。僕のセリフは決まっているので、それを言いながら太田さんの弁ケにワタワタしていました。大ピンチでした笑。それを求められるシーンだったので、九死に一生を得た感じでした。

――撮影期間中、相方・田中さんとはどのようなお話をされていましたか。

長野での撮影中は宿の部屋が一緒でした。日頃から僕の感情表現はほしくないので、こういうセリフのときはどういう風に動いたらいいか、相方に相談していました。

――なんとなく見慣れた光景ですね笑。僕は「何も」知らないので笑。

――人間の心の機微とかが、わからない、という…。

機微、笑。あ！　聞いたことはありますー。あの、粋なヤツですよね？笑。

――粋？。では、それで笑？。

僕は相方に相談して対処することができたのですが、逆に相方が、「エーマ役で」苦労している感じでしたが、一切手伝えなかった。本当にひどいことをしましたね笑。

――完成した作品を一覧になっていかがでしたか。

最初は気持ち悪いです。映っているのが自分だから笑。自分以外のシーンは、プロの方ばっかりなので、いい話だなと思っていたこの作品は、子供の頃から映画監督になりたくてなりたくてしょうがない八木さんの夢も長りゆく結実となった。公開を控えるある日、八木監督が松川町を来訪。夏のひよろ長い姿に、まだピンボン玉大であり摘果といって品質の悪いりんごは地面に落されている。それを指差して八木監督は言った。

「松尾さん、これ何ですか!? 梅ですか？」

お前は今まで何の映画作ってたんだよ！　このひょろ吉野郎が！

というわけで見ていただきましょう、今後も期待しています。

――朱美役でご苦労された点について。

ホステスさんの作法を勉強するためスナックへ

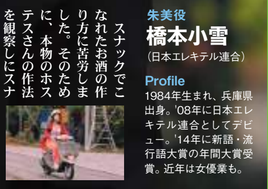
――影のある美しい朱美役を依頼されたき、どのようなことを感じられましたか？

この質問でイシられている感じがありますが笑、八木監督が私にこの役を与えてくれたので一所懸命応えたいと思いました。

――八木さんから見たどんな演出が？。

揺れ動く主人公・実の理解者として寄り添ってほしいと言われました。

――朱美役でご苦労された点について。



スナックでこなれたお酒の作り方に苦労しました。そのために、本物のホステスさんの作法を観察しにスナックに一人で行きました。

――劇中で印象に残るシーンについて。

暴風雨の中での親子のケンカのシーンですね。

――撮影中、印象に残るエピソードをお聞かせください。

松尾アトム前派出所さんのお母さんと地域のお母さんたちと一緒に撮影スタッフさんや演者さんが食べるお弁当を作ったことです。

――八木さんは、本作で映画監督という夢を実らせました。橋本さんが今後、“実らせたい。ものは？

自粛期間中に植えたアボカドです。

朱美役

橋本小雪

（日本エレキテル連合）

Profile

1984年生まれ、兵庫県出身。'08年に日本エレキテル連合としてデビュー。'14年に新語・流行語大賞の年間大賞受賞。近年は女優業も。

宮地大介、前田ばっこーの“なじみ方”に注目してほしい！

本作には、主要キャラクターを演じたまんじゅう大帝国、日本エレキテル連合・橋本以外に、タイタンメンバーが多く出演。なかでも、これまで八木監督が制作してきた独自コンテンツの常連メンバーの宮地大介は、松川町の農家から集められたりんごを管理する職員役で出演しています。そのなじみ方に要注目。また、瞬間メタル・前田ばっこーもあるシーンに登場。あまりの“なじみ方。に、先行試写を観たばっこーを良く知る人物も「ばっこーさんはどこに出ていた？」と、気づけないほど（笑）。八木組常連の2人が長編監督デビュー作を盛り上げている。

CHARACTER

長野・松川町 ―松尾家―

松尾慶子
▶小野真弓

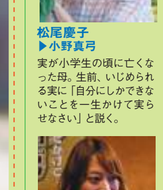
実が小学生の頃に亡くなった母。生前、いじめられる実に「自分にしかできないことを一生かけて実らせなさい」と説く。

松尾等
▶田中要次

実の父。町で評判のりんご農家。妻ひきあと、寡黙にりんごと向き合う生活を送る。頼りない実に一人前のりんご農家になってほしいと願っている。

松尾実
▶竹内一希

芸人志望の25歳。週末のたびに父に内緒で東京のお笑いライブに出演。りんご農家を継ぐか、芸人の道を突き進むか、思い悩み、のちに父と衝突。

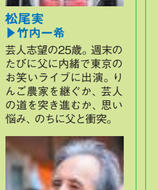


朱美
▶橋本小雪

スナック「ニューヨーク」のホステス。町を出て、東京で過ごしていた過去あり。実の理解者。

ヒデ
▶三浦貴大

りんご農家。実の兄貴的存在。りんご農家を継ぐか、芸人の道を進むか迷う実を見守る。



宮下昭一
▶山本學

松川町のりんご農家をまとめる長老。男所帯の松尾親子を気にかけている。実のための奉納祭に尽力。

東京

エーマ
▶田中永真

実の幼なじみ。実より先に上京し、ピン芸人として活動中。やがて注目される実に嫉妬することに。

みさと
▶鉢嶺杏奈

エーマの恋人。とある事を機にやさぐれるエーマに八つ当たりされても献身的に支えるが…。

Production Notes

実りゆく外伝 映画監督のひよろ吉

文・松尾アトム前派出所

2019年夏、長野。

僕は八木さんを乗せて車を走らせていた。僕というのは、この手記の語り部で長野在住のりんご農家であり、タイタン所属の芸人で、ひよろ吉こと、八木さんという人である。そして、八木さんというのはタイタンのマネジャーであり、映画「実りゆく」の監督でもある華奢男、そのひよろ吉である。

つうわけで、僕とひよろ吉は、映画「実りゆく」の準備を進めていた。この日の打ち合わせは映画の舞台となる長野県松川町の町長と、ひよろ吉をその場に迎えるのが僕の仕事だ。

――ひょっとして：。

僕、なんかマネジャーのマネジャーみたいになってるよ－　それからひよろ吉は長野の打ち合わせの度に僕の家に服を脱いでいくので、それを洗濯するのも僕の仕事にもなった。

――あれ!?　部活のマネジャーみたいにもなってるよ！

のっけからおかんなことになっているが、ありえないことには構っていられない。なぜなら女笑、美容師、酒豪といった漢字二文字の強烈代名詞のすべてを欲しいままにしているタイタン太田荒代社長の、「八本！　映画を作りなさい！」

という鶴の一声があったからだ。その大号令の風圧だけでペラペラ男パカ一代のひよろ吉みたいなもんは何もをついたというのではありませんか。

さらにこの映画のキーワード、りんご、おやい、タイタン、長野県、松川町、すべてが必ずやったスクランブル交差点の上を僕は立っていた。つまり、このプロジェクトの見通しは僕にかかっているのだ。もし、映画が大コケしたら、松川町の看板に泥を塗ったとされ僕は地元で村八分いや村全部になるかもしれないし、主演のタイタン若手有望株のまんじゅう大帝国は殺される道への大きな条件項になりうるし、監督のひよろ吉はもっとひよろひよろになるだろう。

だいぶ初期段階で僕はそこまで考えていた。なんせ僕は、この辺りじゃ有名な、そこまで考えてるおじさんなのだ。それに引き換え、あのひよろ吉はなんだ！　太田社長のパックアップのもと映画が撮れる？笑。無知はいとも簡単に歴史を変えるから恐ろしい。この後、ひよろ吉は松川町のりんご農家の方に司馬遼太郎先生ばりの猛取材を敢行し、松川のりんご農家の世界観を勉強することになる。

――ひよろ吉、初稿タイトルは、「長野のリンゴスター」だった。クリダクセじゃねかよ！　それだったら他にタイトル候補にあがっていただいい！「もっとヤばりのよ」；さらに、この段階では主人公の松尾実は12代続くりん？農家の跡取りという設定だった。おそらく時放送されてた「下町ロケット」で立川談春さん演じる400年続く米農家いうのにインスパイアされたのだろうが、松川町で一番歴史のあるりんご農家でも5代である。また、日本のりんご栽培は明治以降から始まったばかり、全国的にみても12代続くりんご農家は存在しない。無知はいとも簡単に歴史を変えるから恐ろしい。この後、ひよろ吉は松川町のりんご農家の方に司馬遼太郎先生ばりの猛取材を敢行し、松川のりんご農家の世界観を勉強することになる。

――ひよろ吉、松川町長とのりんごスターだった。クリダクセじゃねかよ！　それだったら他にタイトル候補にあがっていただいい！「もっとヤばりのよ」；さらに、この段階では主人公の松尾実は12代続くりん？農家の跡取りという設定だった。おそらく時放送されてた「下町ロケット」で立川談春さん演じる400年続く米農家いうのにインスパイアされたのだろうが、松川町で一番歴史のあるりんご農家でも5代である。また、日本のりんご栽培は明治以降から始まったばかり、全国的にみても12代続くりんご農家は存在しない。無知はいとも簡単に歴史を変えるから恐ろしい。この後、ひよろ吉は松川町のりんご農家の方に司馬遼太郎先生ばりの猛取材を敢行し、松川のりんご農家の世界観を勉強することになる。

――ひよろ吉、初稿タイトルは、「長野のリンゴスター」だ